



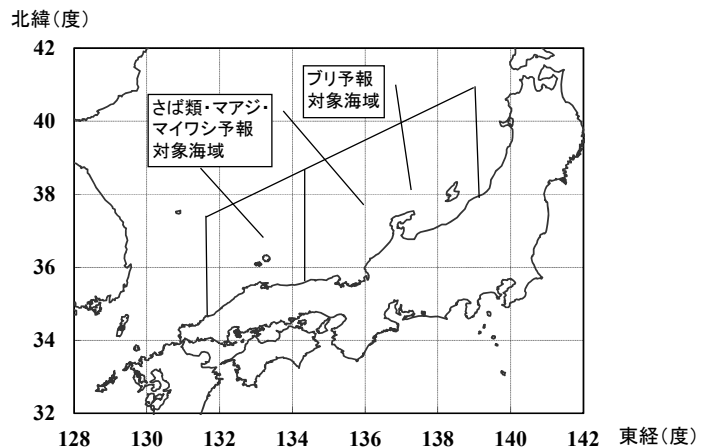
平成28年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成28年11月～平成29年3月)のポイント

漁況(来遊量)

- (1) さば類(島根県～新潟県)
前年並
- (2) マアジ(島根県～新潟県)
前年並かやや上回る
- (3) マイワシ(島根県～新潟県)
前年並
- (4) ブリ(兵庫県～新潟県)
0歳魚は前年を上回る
1歳魚は前年を下回る
2歳以上魚は前年を上回る



※「前年」は2015(平成27)年11月～2016(平成28)年3月

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所

担当：業務推進部 加藤、江連

資源管理部 上原、後藤、松倉、久保田

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.fra.go.jp/>

平成28年度 日本海さば類・マアジ・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2016年11月～2017年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）
0歳魚（2016年級群）と1歳魚（2015年級群）が主体、来遊量は前年並
2. マアジ（島根県～新潟県）
0歳魚（2016年級群）が主体、来遊量は前年並かやや上回る
3. マイワシ（島根県～新潟県）
0歳魚（2016年級群）が主体、来遊量は前年並
4. ブリ（兵庫県～新潟県）
0歳魚（2016年級群）：前年を上回る
1歳魚（2015年級群）：前年を下回る
2歳以上魚（2014以前年級群）：前年を上回る

※「前年」は2015年11月～2016年3月

I 予報の説明

漁況の経過（2016年1月～9月）および今後の見通し

1. さば類（図1、図2）

●2016年1月～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系群の一部である。島根県～新潟県の主要港におけるさば類の漁獲量は、ここ10年間では2008年～2009年と2011年～2012年、そして2014年～2015年に多く、2010年と2013年に少なかった。2016年1月～9月における漁獲量は19,900トンで、前年同期（16,000トン）を上回り、さらに過去5年（2011年～2015年）平均（15,600トン）を上回った。

府県別では、全体に占める割合が大きい鳥取県および島根県（まき網）の漁獲量は、過去5年（2011年～2015年）平均と比較すると、1月は下回ったものの、2月は1.6倍、3月は3.1倍と多かった。中部以北におけるまき網（主体は石川県と新潟県）の漁獲量は、1月～4月、6月～7月に前年より多かった。一方、兵庫県以北の定置網の漁獲量は2月～4月にかけて、前年を下回り、5月以降は過去2年間と同様の漁獲動向であった。

●資源状態と年級群の豊度

「平成28年度 第1回 対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報」（西海区水産研究所）によると、マサバ対馬暖流系群の年級群毎の豊度は、2014年級群は2013年級群より高く、2015年級群は2014年級群と同程度とみられている。なお、2016年級群は2015年級群程度と考えられている。

●今後の見通しについて

例年、日本海の漁獲量については、鳥取県および島根県のまき網の占める割合が大きく、11月～3月には0歳魚と1歳魚が漁獲の主体となる。0歳魚（2016年級群）、1歳魚（2015年級群）ともに豊度は前年並と考えられるため、予報期間における来遊量は前年並と予想される。

2. マアジ（図3～図5）

●2016年1月～9月の経過

2002年～2014年における島根県～新潟県の主要港における漁獲量は、32,800～67,700トンの範囲で推移した。2015年の漁獲量は、これまで最低であった2012年を下回る30,400トンであった。2016年1月～9月の漁獲量は24,400トンで、前年同期（25,500トン）を下回り2011年（24,000トン）並であった。1月～7月までの漁獲量は前年と同程度であったが、8月の漁獲量が前年に比べ大きく減少した。

●資源状態と年級群の豊度

日本海で漁獲されるマアジは対馬暖流系群の一部である。漁獲の動向は同系群の資源状態と密接に関わっており、0歳魚と1歳魚が主に漁獲される。新規加入する0歳魚を主対象として、2003年以降、日本海西部海域にてマアジの新規加入量調査を実施しており、その結果からマアジの加入量指数(来遊の多寡)を算出している。来遊量の多かった2003年を1としたとき、過去最高値となった2014年は3.03、2015年は0.34、2016年は2.20であった。2016年は2014年に次ぐ高い値であったことから、2016年の0歳魚(2016年級群)の豊度は2歳魚(2014年級群)には及ばないものの、1歳魚(2015年級群)を上回ることが推察された。

●今後の見通しについて

予報期間(11月~3月)における日本海では、例年0歳魚と1歳魚が主体で2歳魚以上も漁獲されている。2016年の新規加入量調査による加入量指数は前年を上回り、0歳魚(2016年級群)の豊度は前年よりも高く、来遊量は前年を上回ることが予想される。一方、1歳魚(2015年級群)の豊度は前年より低く、来遊量は前年を下回ることが予想され、2歳魚(2014年級群)の豊度は前年よりも高いと考えられるが、2016年1月~9月の漁獲量は前年を下回った。以上のことから、予報期間における0歳魚の来遊量が多いと考えられるため、全体として前年並かやや上回ると予想される。

3. マイワシ(図6、図7)

●2016年1月~9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は2010年までゆるやかに増加傾向を示していたが、2011年に急増し30,000トンを超えた。2012年はやや減少したものの、2013年には2011年の倍近い約59,000トンとなった。2014年は一年を通して極めて低い水準であったが、2015年は近年では最も高かった2013年をやや下回った。2016年の漁獲量は3月~5月まで前年並か前年を上回る水準であったが、6月以降は下回った。定置網では3月~5月に石川県と富山県で増加し、まき網では、5月に鳥取県で、6月に石川県で増加した。

●資源状態と年級群の豊度

2015年級群の豊度は2014年級群を上回り、2016年級群は漁況の推移から2015年級群と同程度と考えられる。

●今後の見通しについて

例年、11月~3月には0歳魚が漁獲の主体となり、1歳魚以上も漁獲される。2016年における0歳魚の豊度は前年と同程度と考えられることから、予報期間における来遊量は前年並と予想される。

4. ブリ(図8~図10)

●2016年1月~9月の経過

2000年~2010年における兵庫県~新潟県の主要定置網の漁獲量は5,000~8,600トンであったが、2011年は12,000トンとなり、2000年以降では最高となった。2012年は7,400トンに減少したが、2014年は再び1万トンを超えた(10,800トン)。2016年1月~9月における漁獲量は4,500トンで、前年同期(8,200トン)および過去5年(2011年~2015年)平均(6,700トン)を下回った。

年齢別の漁況経過をみると、0歳魚の漁獲量(7月~9月)は880トンで、前年同期(550トン)を上回り過去5年(2011年~2015年)平均(880トン)並であった。1歳魚の漁獲量(4月~9月)は1,700トンで、前年同期(4,700トン)および過去5年(2011年~2015年)平均(3,200トン)を下回った。2歳以上魚の漁獲量(4月~9月)は1,600トンで、前年同期(1,200トン)および過去5年(2011年~2015年)平均(1,000トン)を上回った。

●資源状態と年級群の豊度および今後の見通しについて

2016年級群である7月~9月の0歳魚の漁獲量は前年を上回ったことから、11月~3月の0歳魚の来遊量は前年を上回ると予測される。

1歳魚(2015年級群)は4月~9月の漁獲量が前年を下回ったことから、11月~3月の1歳魚の来遊量は前年を下回ると予測される。

2歳以上魚(2014以前年級群)の4月~9月の漁獲量は前年を上回ったことから、11月~3月の2歳以上魚の来遊量は前年を上回ると予測される。

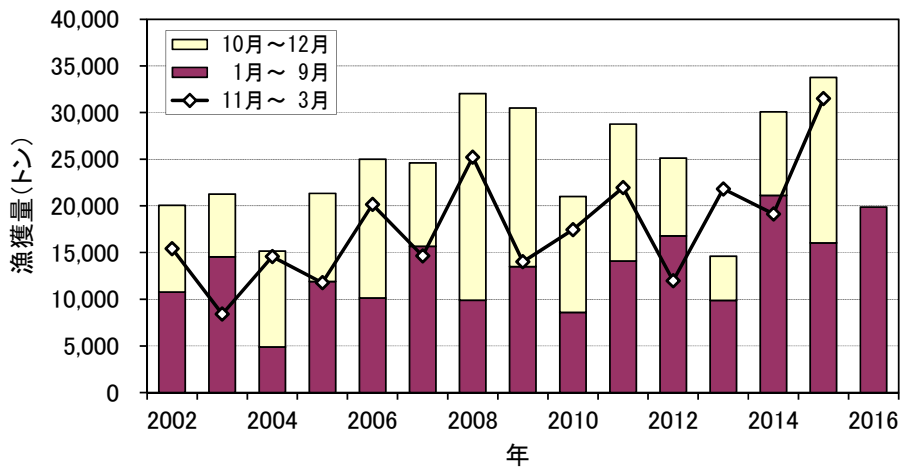


図1 島根県～新潟県におけるさば類の漁獲量の推移（2016年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

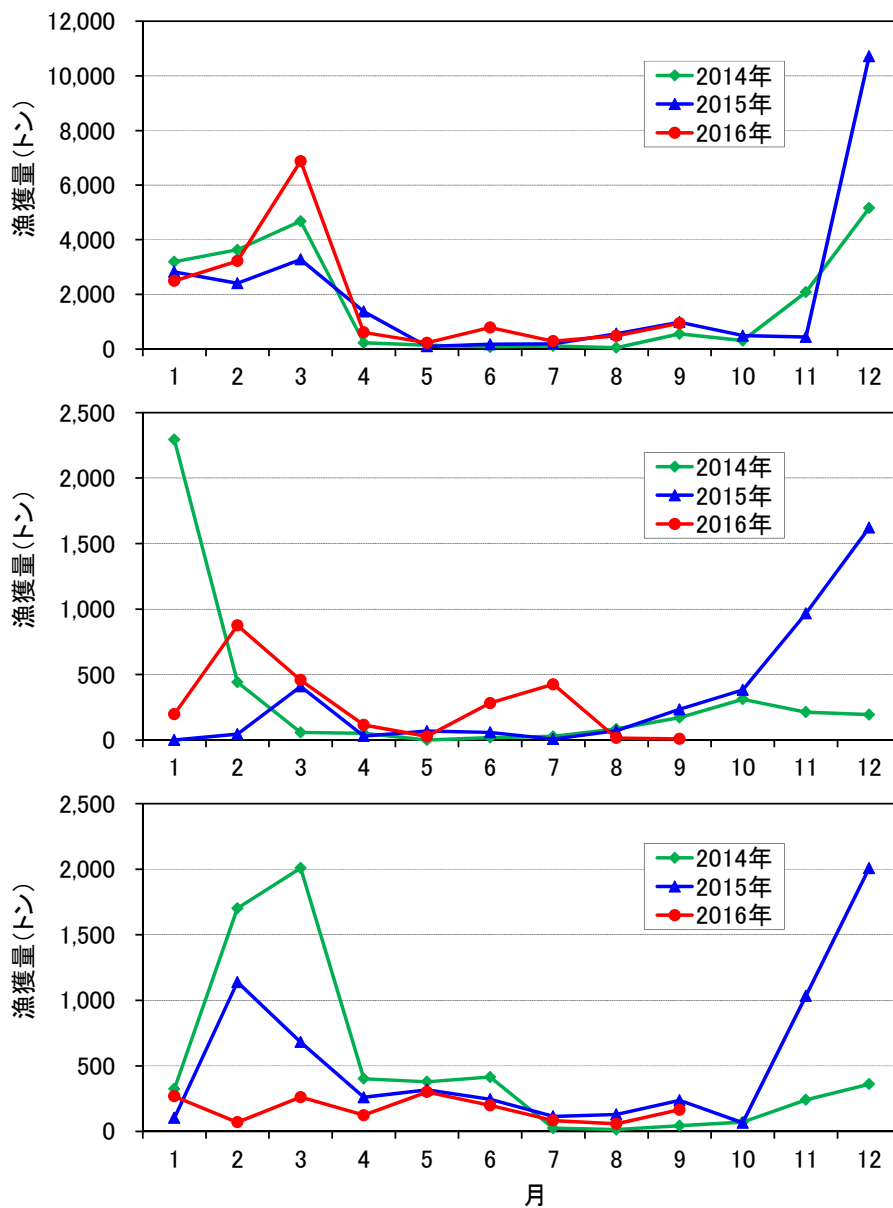


図2 2014年～2016年におけるさば類の月別漁獲量の推移（2016年は9月まで）
上：島根県～鳥取県（まき網）
中：兵庫県～新潟県（まき網：定置網以外を集計）
下：兵庫県～新潟県（定置網）

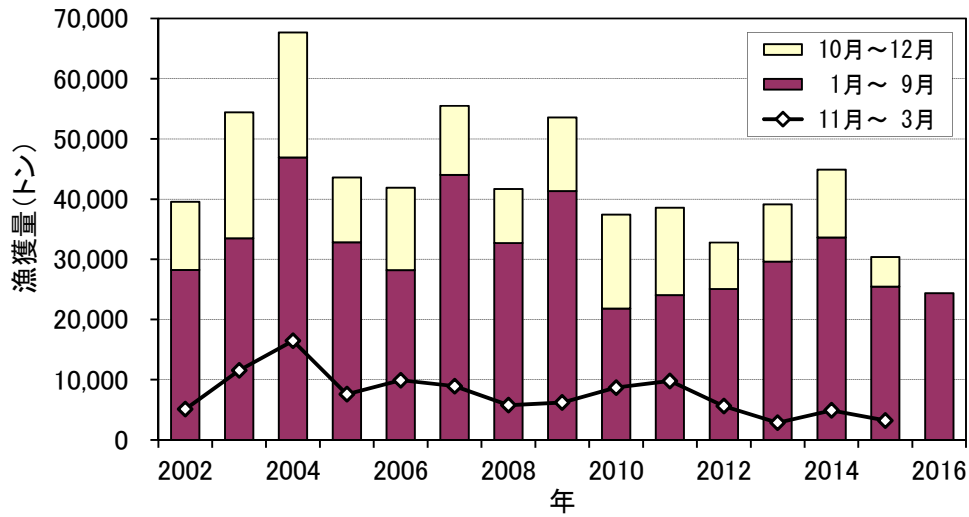


図3 島根県～新潟県におけるマアジの漁獲量の推移（2016年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

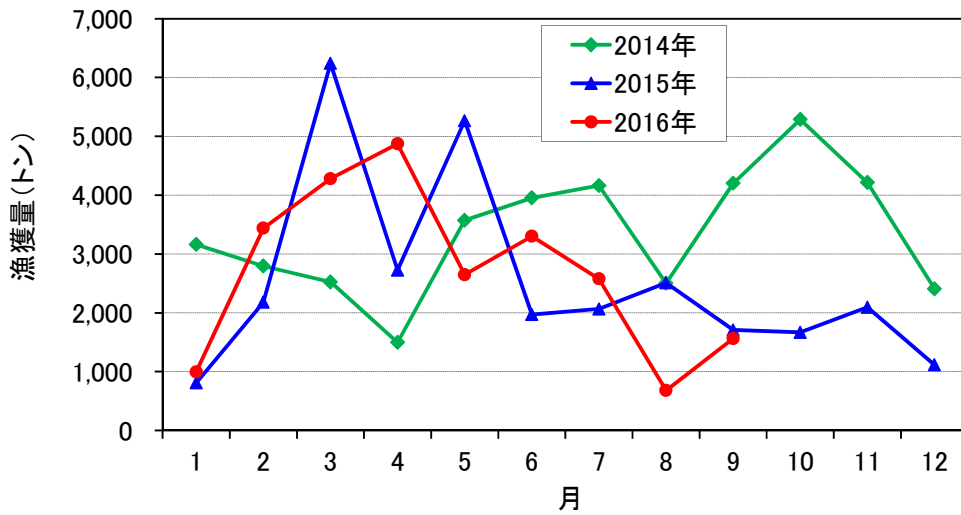


図4 2014年～2016年の島根県～新潟県におけるマアジの月別漁獲量の推移（2016年は9月まで）

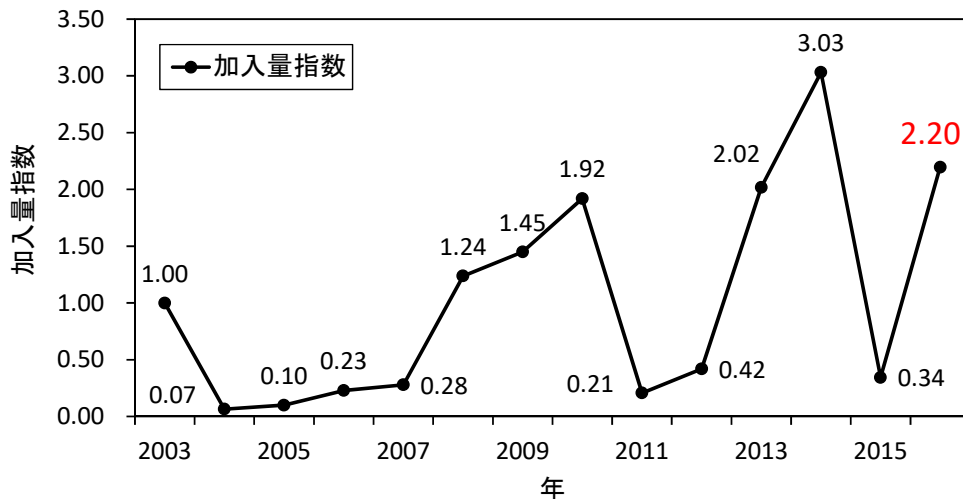


図5 新規加入量調査によるマアジ加入量指数の推移（2003年を1とした）

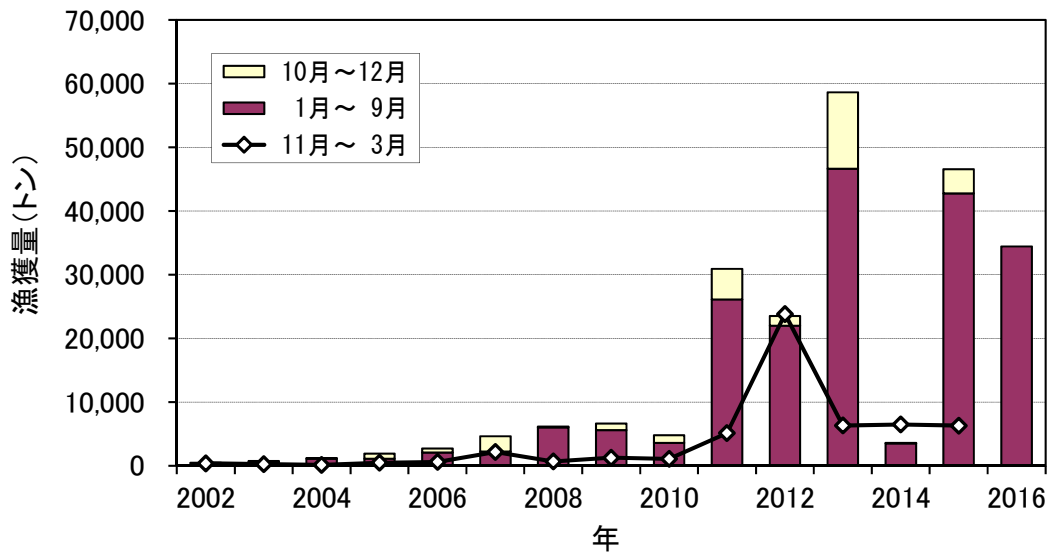


図6 島根県～新潟県におけるマイワシの漁獲量の推移（2016年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

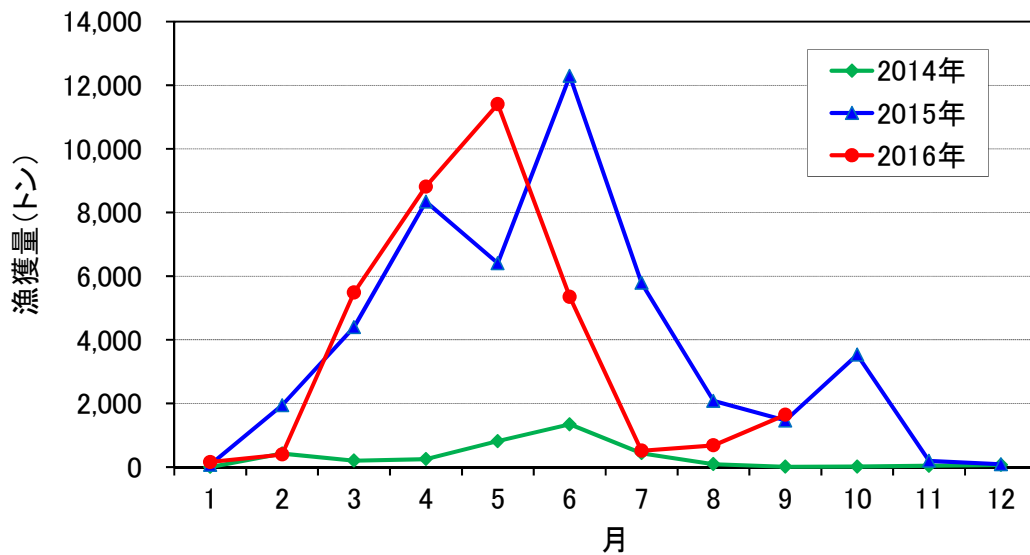


図7 2014年～2016年の島根県～新潟県におけるマイワシの月別漁獲量の推移
（2016年は9月まで） 折線は予報期間の11月～3月の合計。

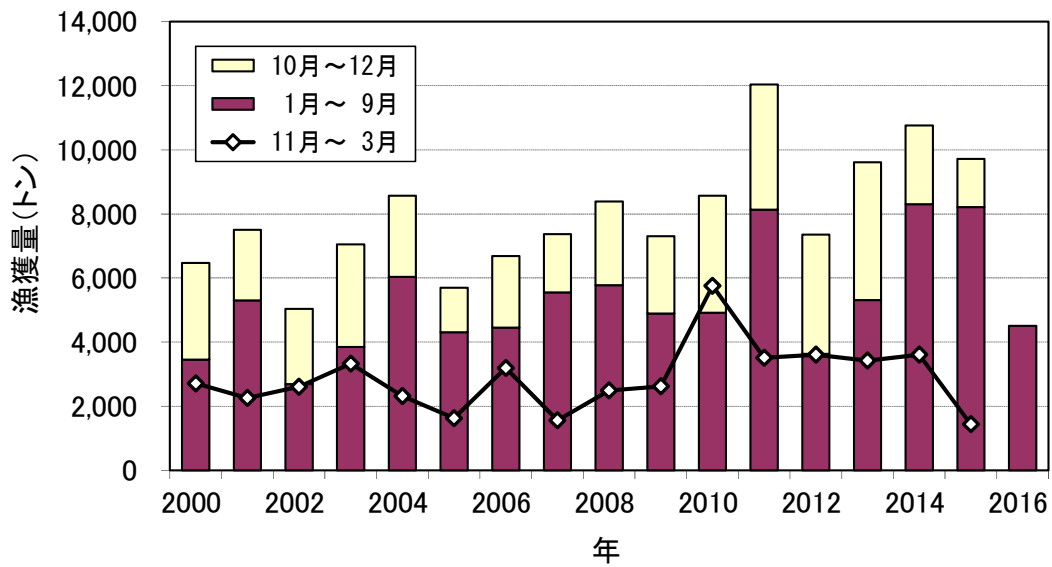


図8 兵庫県～新潟県の主要港におけるブリの定置網漁獲量の推移（2016年は9月まで）
折線は予報期間と同じ11月～翌年3月の合計。

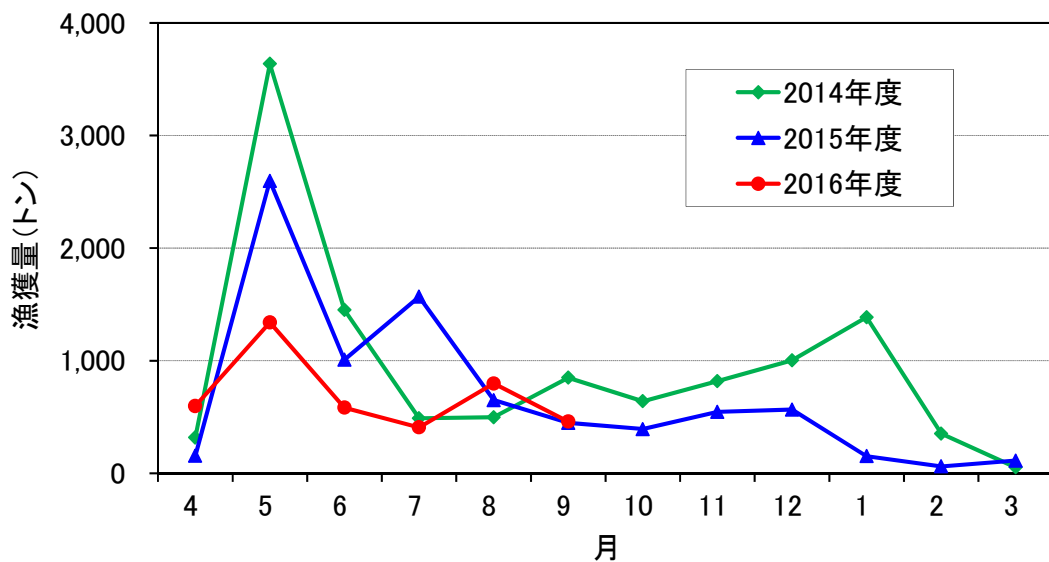


図9 2014年度～2016年度の兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量の推移
(2016年度は9月まで)

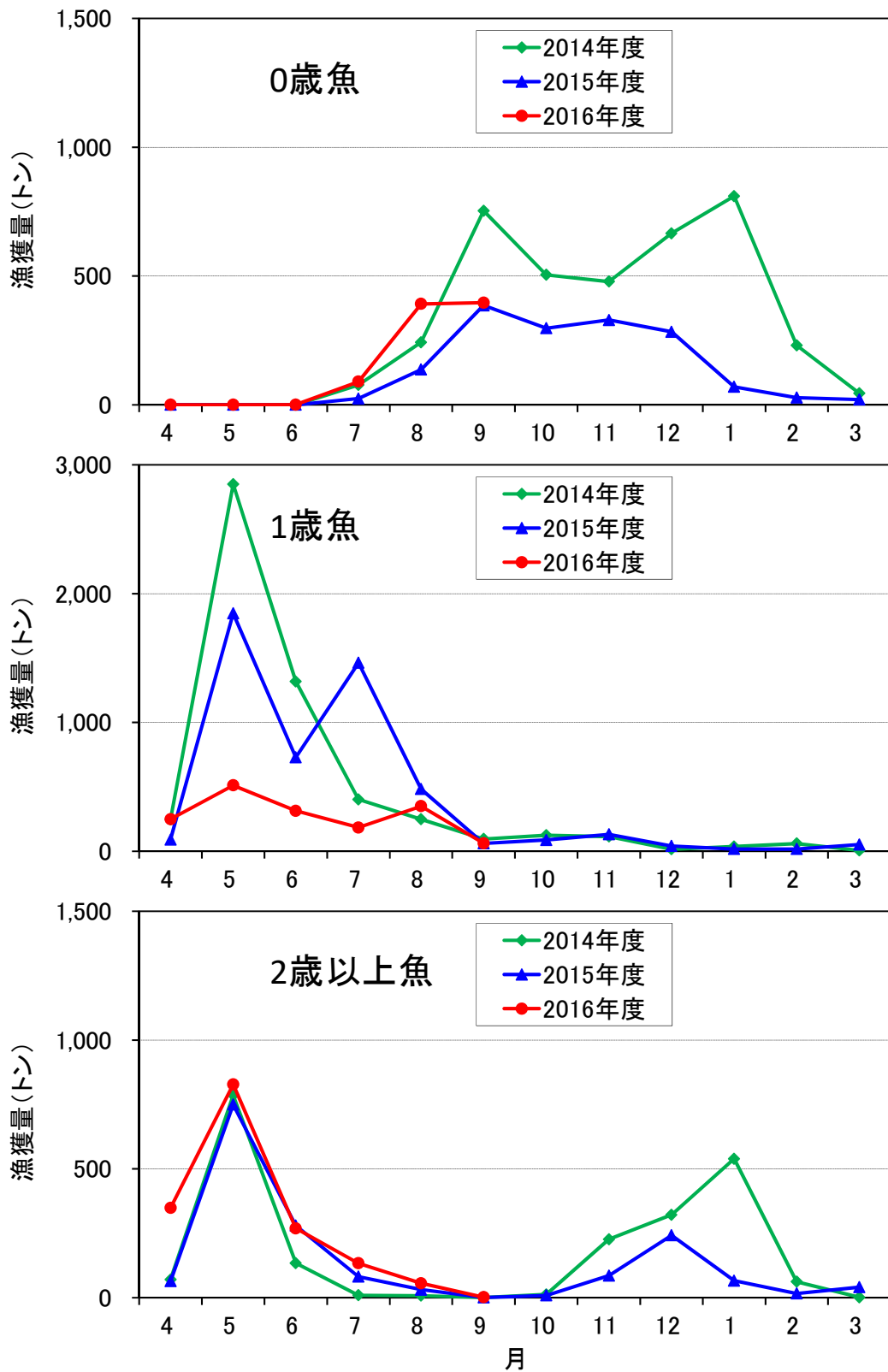


図10 2014年度～2016年度の兵庫県～新潟県におけるブリの定置網月別漁獲量の推移 (2016年度は9月まで)

参 画 機 関

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 西海区水産研究所
石川県水産総合センター	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所
福井県水産試験場	
京都府農林水産技術センター 海洋センター	